

群馬県神津牧場に生息するニホンアナグマ (*Meles meles anakuma*) の生態

土方宏治・南 正人

麻布大学 動物応用科学科 野生動物学研究室

要旨

ニホンアナグマ(以下アナグマ)は、身近な動物であるがその生態はよく知られていない。牧場に生息するアナグマの生態を明らかにすることを目的とし、センサーカメラで巣穴利用と土地利用を、ポイント柞法による糞分析で食性を調査している。調査地の神津牧場は群馬県甘楽郡下仁田町の山中に位置し、標高 850m から 1350m で、草地が森林の中に分散して配置されており、牛が放牧されている。草地に隣接した林内でアナグマが利用している巣穴が見つかった。同じ林内に 7 か所、23 個の穴が確認された。調査は 2014 年 6 月から始め、巣穴利用と食性については調査が進んできた。巣穴利用については、6 月から日を追って利用頻度が高くなり、7、8 月をピークとして利用頻度が下がっていった。食性については、夏はミミズと昆虫をよく食べていて、秋になるにつれてミミズが減り果実と昆虫を食べるようになっていった。昆虫の中には、糞虫が多くみられた。



左図 神津牧場の林内に作られたアナグマの巣穴。この巣穴では三頭の仔アナグマが育てられている様子が撮影された。



右図 排水パイプを巣穴として利用しているアナグマ。敷き詰めた草を寝床として使用しており、撮影者の前でもその上で休息していた。